

福岡大学病院 腫瘍・血液・感染症内科 卒後臨床研修プログラム

I. 特徴

福岡大学病院腫瘍・血液・感染症内科は、腫瘍・血液・感染症を専門とする内科である。当科としての特徴は、腫瘍・血液疾患に対する薬物療法、支持療法および感染制御の知識・技能を身につけ、内科全体の臨床能力の高い医師の養成を目指している。当科で実施する内科研修は、福岡大学病院研修プログラムに沿ったものであり、卒前・卒後教育に早くから取り組んできたことと、当科の疾患の特徴である内科全体におよぶ守備範囲の広さをいかした臨床研修が可能である。

II. 診療科概要

病床数は22床。指導医数は9人(腫瘍・血液7人、感染症2人)。スタッフは、高松 泰(主任教授)、田中 俊裕、磯部 泰司、佐々木 秀法、茂木 愛、中島 勇太、知念 祥太郎、高田 徹(感染制御部教授)、戸川 温で構成されている。

2019年度の入院患者総数は365人であった。入院患者の内訳としては、腫瘍99人、血液248人、感染症/その他18人であった。腫瘍の主なものは、乳癌(52%)、消化器癌(22%)、肉腫(12%)の患者であり、血液疾患の66%は悪性リンパ腫の患者であった。外来化学療法室で治療を行った当科患者の総数は969人であった。

感染症は感染制御部と連携して、主として入院患者に併発する各種感染症やHIV感染患者の診療・管理を行っている。

III. 研修目標

がんや感染症患者の病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力(態度、技能、知識)を身につけるとともに、医師としての人格を涵養する。

1. 医療人として必要な基本姿勢・態度(患者－医師関係、チーム医療、問題解決能力、安全管理、医療面接、症例呈示、診療計画、医療の社会性)を身につける。
2. 患者の身体的苦痛に加え、精神的苦痛、スピリチュアルな苦痛、社会的苦痛に配慮した全人的医療を身につける。
3. 厚生労働省の呈示した到達目標のうち、一般目標、基本的診察法、基本的検査法(1)(2)(3)、基本的治療法(1)(2)、基本的手技のうち小外科的な手技を除く部分、終末期医療、患者・家族関係、チーム医療、文書記録、診療計画・評価などを修得する。

IV. 研修内容

主として病棟において指導医のもと5～7人程度の患者を受け持ち、内科疾患に関する診療技術と知識を学ぶ。各入院患者は、疾患により各専門医のグループに登録され、この専門医グループもそれぞれの患者に対し責任を持つとともに研修医の指導にあたる。

1. オリエンテーション：研修最初の1週間に院内諸規定、施設設備の概要と利用法、文献と病歴検索法、健康保険制度、医事法規など、また診療における注意点など一連のレクチャーがある。
2. 研修期間は2ヵ月であり、腫瘍・血液・感染症患者を主に受け持つ。
3. 月・火曜日 午前8時15分から、水・木・金曜日 午前8時30分から新患患者のプレゼンテーションを行う。月曜日または火曜日午後5時前から教授回診を行う。
4. 交代で内科外来での指導医のもとに新患、再診患者の診療にあたり、外来診療の基礎を身につける。
5. 毎週木曜日15時から、多職種カンファレンスその後症例検討会があり、問題症例、教育的症例について討議する。
6. 受け持ち患者の検査には可能な限り付き添い、専門医師の指導のもとに検査を行う。
7. 研修終了月に、研修成果の一端を披露する目的で、研修期間中に経験した興味ある症例や、研修成績などにつき学会形式で発表する。さらに興味ある症例があれば、学会において症例発表を行い、論文として学術雑誌に投稿する。
8. 週間スケジュール

	AM8:15	8:30	9	10	11	12	PM1	2	3	4	5	5:30
月	病棟カンファレンス								感染症 回診		腫瘍血液回診	がんサーボード
火	病棟カンファレンス										腫瘍血液回診	
水		病棟カンファ レンス										
木		病棟カンファ レンス							多職種カンファ レンス		症例検討会	
金		病棟カンファ レンス										

表のあいた時間は、すべて病棟での研修である。

V. 当科の医療安全等に係る研修医教育

1. 当科の診療体制、医療安全
2. 骨髄生検時の注意事項
3. 輸血時の注意事項
4. 臨床試験の対応
5. 抗癌剤の種類と漏出時対応
6. ショック時の対応
7. 胸腹穿刺時の注意事項
8. 腫瘍崩壊症候群予防と対応
9. 嘔気・嘔吐の対応
10. 骨髄移植の流れ
11. 病理標本の取り扱い
12. 抗菌薬の使い方
13. 多剤耐性菌について
14. 各種感染予防策について

プログラム責任者 高松 泰